



赤目まちづくり委員会・市民センター たきこちゃん通信 5

2021年
月号

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター)〒518-0465名張市赤目町丈六238-1 電話/FAX63-0329 E-mail/akame-ko@emachi-nabari.jp

明るいお知らせを。

赤目まちづくり委員会 会長 亀本和丈

山の緑が一段と鮮やかに、また早い所では田植えが始まる今日この頃、地域の皆様にはご健勝の事心よりお慶び申し上げます。

日頃はまちづくり並びに市民センター活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

令和2年度を振り返って見ますと世間全体が新型コロナウイルスに振りまわされた年であったと思われませんが、私達赤目町にも明るい出来事も何件かありますので、ご紹介したいと思います。

先ずオリンピック聖火が一年遅れで、去る4月8日赤目四十八滝に到着し最高の天気にも恵まれ無事予定通り実施する事が出来、協力頂きました関係者にお礼申し上げます。また赤目駐在所が新築されモダンな姿を4月1日から披露致しており観光客からも注目をあびておる処です。また梅雨や台風シーズンを控え、大雨等が心配な時期になり毎年滝川の水量に消防団員は勿論我々も頭を悩ませていたのですが、この度風呂屋橋(県道赤目滝線柏原)に定置カメラの設置を要望した処、即取り付け工事が行われ5月1日より昼夜を問わずスマホでも河川の水量が確認出来る様になりました。加えて9月からは、丈六の赤目消防団詰所が新しく建設される事が決定致しました。

コロナによる暗いニュースばかりの日常ではありましたが、赤目町では以上の様な明るく、またありがたい事も数多くありましたので、お知らせ致しますと共に地域の皆さんもお元気で明るい毎日を送りましょう。

丈六寺五輪塔修復完了

丈六寺(赤目町丈六)に残る鎌倉時代作の市指定有形文化財「石造五輪塔」の半年に及ぶ修復が終わり、4月11日元の場所への設置作業があった。修復前は主に3か所の欠損があったが、同質の石材で補填されるなどし、建立当時の堂々とした姿がよみがえった。

東大寺の初代別当・良弁僧正の供養塔とされ五輪塔は、「正応四(1291)年」の銘があることから市内最古とされている。



地域協力隊 三浦広宣さん紹介

全国で実施している「地域おこし協力隊」は、都市部から地方に移り住んで地域活性化に取り組む国の制度で、名張市に4月1日付で4名が初めて着任。これまでの多彩な経験を生かし、地域の魅力の掘り起こしや発信などに取り組む。任期は最長3年間。

赤目地区担当は、三浦広宣さん(ひろのぶ・39歳、右から二人目)で、桑名市出身、学習塾講師やセミナー主催の経験を生かし、地域の新たな価値創出を模索する。

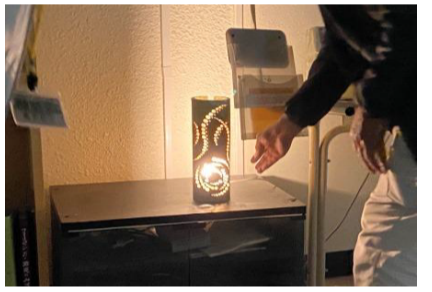
名張市地域おこし協力隊着任式



「子どもと親が共に成長できるコミュニティづくりをしたい」と意欲満々。4/6(火)に赤目市民センターに挨拶に来られました。

『あかめ竹あかりSDGsプロジェクト』活動

4/17(土)10時より赤目市民センター・大会議室にて、プロジェクトメンバーで竹あかりの試作品製作をしました。坂上・堀内両部長より経過説明の後、瀧野リーダーよりドリルの使い方など型紙に合わせて、穴の開け方を教わりました。皆が真剣に取り組んで、見事に素晴らしい作品の出来上がりです。



近鉄・赤目口駅トイレ清掃員 急募!!

赤目口駅前のトイレ掃除(約40分)一日2回(午前・午後)を担当して頂きます。1か月交代で、1か月間毎日の作業になります。報酬1回600円 男女・年齢不問、真面目な方 履歴書持参・後日面接等連絡致します。

名張市観光課・赤目まちづくり委員会 TEL. 63-0329

赤目に聖火が来た。

新緑まぶしい赤目四十八滝・不動橋から赤目四十八滝キャンプ場までの約1.6キロの区間を、4/8(木)地元の梶谷さんを始めとする11人の聖火ランナーが走り抜けた。聖火ランナーと共に錦生赤目小学校の児童と773年の歴史を持つ伊賀一ノ井松明調進行事の行列が、赤目四十八滝キャンプ場で待ち受ける赤目中学校吹奏楽団の演奏に出迎えられた。(写真提供市広報室)



名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋(無料交付)

特大45リットル10枚480円・大30リットル10枚300円・中20リットル10枚180円・小10リットル10枚80円
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり30枚以内。

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター
ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話でQRコードを読み取って下さい。
また市民センターでは、無料Wi-Fiが使えます。

皆さん、奮ってご参加ください!!

赤目町の皆様へ

赤目市民センター
センター長 吉田 好文

市民センター主催講座

ダム見学ツアー

この度、第1回「ダム見学バスツアー」を開催致します。南海トラフ巨大地震が発生した時の、河川の洪水・氾濫を考慮しての室生・青蓮寺・比奈知・川上ダムの4つのダムをバスで巡り見学するツアーです。通常、ダムの管理者しか入ることができないダムの内部に入ることや、点検用の監査廊を歩くことができる初のダム見学バスツアーを企画しました。



- ・開催日 6月3日(木) 午前9時出発～午後3時ごろ解散予定
- ・集合 赤目市民センター
- ・内容 近郊の室生・青蓮寺・比奈知・川上ダムの4ヶ所を見学します。(お昼は、青蓮寺レイクホテル予定)

※参加費は、当日ご持参ください。

- ・持ち物 参加費3,000円(昼食代・保険代含む)、水筒、マスクなど。
- ・受付開始日 5月24日(月)までに、下記申込書をご記入の上、赤目市民センターにお申し込み下さい。名張ケンコー！マイレージポイント対象です。

定員25名になり次第締め切ります。

(新型コロナウイルスの感染予防の為、状況により中止になる場合があります。)

赤目市民センター「ダム見学会バスツアー」に参加を申し込みます。

ふりがな

名前 / (年齢 歳)

住所 / 電話番号 /



不審電話にご注意!!

「お金が戻ってくる」「ATMで還付金を受け取れる」「介護保険の払い戻しがある」などは、還付金詐欺です。知らない人から電話があったら、いったん切り家族・知人、警察などに相談ください。名張警察 62-0110 名張市役所・市民相談室 63-7416

5月10日～6月6日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
5/10	11	12 ふれあいサロン	13	14	15 竜神山トレッキング	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26 ふれあいサロン 忍たま広場	27	28	29	30
31	6/1	2	3 ダム見学	4	5	6 名張市クリーン作戦

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密(密集・密接・密閉)を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合がありますので、ご注意お願い致します。

※センター主催講座、新年度各サークル紹介の詳細は、今後配布のチラシ・回覧をご覧ください。

6月の行事予定



- ★6/9(水) ふれあいサロン
- ★6/17(木) サンサンカレー
- ★6/19(土) ホテル観賞会(雨天中止)
- ★6/23(水) ふれあいサロン・忍たま広場

令和3年度の市民センター活動及びサークルの会員募集・サークル紹介を随時させていただきます。体験入学等詳細は、ご気軽に連絡ください。

赤目竹あかりSDGsプロジェクトでは、竹細工・竹あかりの製作をされる方を募集しています。詳細は、市民センターまで。 ☎63-0329

Vol. 16 歴史散策紀行…「赤目文化遺産」(各区・地域の名所・名品を募集しています。)

遺跡・古墳群…尻矢・杉屋谷古墳<後編>

前号から引き続き「遺跡・古墳」の話。赤目の南西部一ノ井から柏原、また南東部(竜神山の山裾)柏原・檀(赤目が丘)から星川・すみれが丘の山側に掛けて、多くの古墳群が発見されている。特に横山古墳群は、17基が発掘され、横穴式石室8基が見つかった。その代表が琴平山古墳。またすみれが丘造成開発の折りに発見された尻矢(しりや)古墳群は、8基、横穴式石室4・小石石室2基である。その調査の際に尾根の上部で発見されたのが、杉屋谷(すぎやたに)古墳群10基です。

尻矢古墳の主な遺物は、土師器(はじき)、須恵器(すえき)、銅鏡2(四神四獣鏡獣形鏡)、ガラス製勾玉、土玉、管玉、メノウ小玉などが出土。古墳時代の土器は、土師器と須恵器がある。土師器は、弥生時代から続く、赤い色で、焚き火で焼く野焼(のや)きのもので、湯を沸かすのに使用。須恵器は、朝鮮半島から伝わった窯(かま)焼きの技術で焼かれたもの。色は灰色で、キンキンと云う音がし硬い。また、轆轤(ろくろ)の回転を利用して成形し、水などを貯める器とした。

身のまわりの装身具は、首飾りなどの玉類(たまるい)、貝のかたちをまねた腕輪、帯(おび)にはりつける金色の飾り、金色の冠(か

んむり)、沓(くつ)といったもの。特に、耳飾りは縄文時代からあって、弥生時代になくなるが、古墳時代に新しい形のものが朝鮮半島から渡来。

すでに弥生時代には稲作が始まり、青銅器や鉄器が伝わり、水利権や収穫した米などをめぐって、村と村の争いも起き始めた。やがて、稲の大量生産などで収穫が増え、自分たちの一族が利益を得るよう支配が始まり、貧富や階級の差が出てくる。そして、富を蓄えた身分の高い人は、村人を働かせて豪華な墓を作らせた。これが古墳と呼ばれるお墓。集落が見渡せる見晴らしの良い丘の尾根などに盛り土をして作られ、数多くの人が、鉄器や原始的な道具を使い、長い月日と苦しい労役の末に作り上げたもの。

残念ながら文字のない時代(先史時代)だけに、埋蔵物から推測する以外にないが、縄文文化から開発された食料獲得技術や動植物利用技術、工芸技術は、灌漑(かんがい)水田稲作が大陸よりもたらされ食糧生産が始まった約3000年前の時期・弥生時代以降の長きにわたって維持され、その一部は今日の伝統文化の中にも継承されている。参考文献『名張市史 資料編 考古』

